

事業コード	H23-建-新-02		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(改築)		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	調整・企画管理班 (tel) 018-860-2485
路線名等	主要地方道 秋田雄和本荘線		担当課長名	柴田 明
箇所名	秋田市相川(水沢橋)		担当者名	主幹兼班長 佐藤 秀治
総合計画との関連	政策コード	17	政策名	新たな生活圏の創造
	施策コード	04	施策名	地域内交通の整備
	指標コード	01	施策目標(指標)名	県道の整備推進

1. 事業の概要

事業期間	H24 ~ H32 (9年)		総事業費	40.0億円	国庫補助率	7/10	
事業規模	○延長L=1,360m(バイパスL=960m、現道改良L=400m) 橋梁架替1橋(L=290m)、幅員W=6.5(11.0)m						
事業の立案に至る背景	<p>秋田雄和本荘線は秋田市と由利本荘市を結ぶ幹線道路であり、旧雄和町内では日常生活を支える道路の役割を担っている。また、接続する雄和岩城線と併せて由利本荘市からの秋田空港へのアクセス道路として機能するなど当路線の重要度は高い。しかし、当区間内の水沢橋は歩道がなく歩行者は車道を歩行せざるを得ず危険にさらされている。また、橋の構造から大型車は高さ3.1m以下に制限されており、それ以上の大型車は迂回を余儀なくされているほか、幅員も狭くすれ違いが困難である。</p> <p>このため、安全で円滑な交通の確保を図るため、橋梁を新たに架け替えるとともに、狭隘な現道部のバイパス化を図るものである。</p>						
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ○秋田空港へのアクセス性の向上や地域内交流の活性化 ○車両のすれ違い困難箇所の解消 ○安全な歩行空間の確保 ○緊急輸送道路としての機能確保(第2次緊急輸送路に指定されている) ○老朽橋対策、重交通への対応(TL-14→B活荷重) 						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度以降
	事 業 費		4,000,000	90,000	100,000	150,000	3,660,000
	経費 内訳	工 事 費	3,530,000			15,000	3,515,000
		用 補 費	350,000	10,000	90,000	130,000	120,000
		そ の 他	120,000	80,000	10,000	5,000	25,000
	財源 内訳	国庫補助	2,800,000	63,000	70,000	105,000	2,562,000
		県 債	1,080,000	24,300	27,000	40,400	988,300
そ の 他							
一 般 財 源		120,000	2,700	3,000	4,600	109,700	
事 業 内 容			詳細設計、用地測量、建物調査等	設計調査、用地建物補償等	道路土工、用地建物補償等	道路改良、橋梁上下部工、旧橋撤去、用地補償	
調査経緯	<p>平成14年度 橋梁予備設計 平成22年度 道路予備設計</p>						
上位計画での位置付け	○ふるさと秋田元気創造プランの「社会資本整備」を推進する事業						
関連プロジェクト等	<ul style="list-style-type: none"> ○秋田市総合計画「県都『あきた』成長プラン」 ○道路改良工事(相川工区(H10~H17)、女米木工区(H12~H22)) 						
事業を取り巻く情勢の変化	<ul style="list-style-type: none"> ○橋梁部は幅員狭小で大型車両のすれ違いが困難で、歩道もないことから安全上問題がある。 ○また、設計荷重がTL-14で現在の大型車両に対する耐力に限界があり、現構造では耐荷力補強は困難である。 						
事業効率把握の手法	指 標 名	県道改良率					
	指 標 式	改良済延長/路線実延長					
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標		低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目標値 a	70%		データ等の出典	道路課調べ		
	達成値 b	71%					
達成率 b/a	101%		把握の時期	平成23年 4月			

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	○旧雄和町相川、戸米川地区の日常生活を支える道路であるとともに、空港へのアクセス道路としての機能も有しているため交通量が多いが、水沢橋は大型車両同士のすれ違いが困難であり、歩行空間も確保されていない。 ○通学路指定されているが、歩道がなく車道を歩かざるを得ない。	28 点
緊 急 性	○水沢橋は昭和35年に架設された設計荷重TL-14、4径間鋼製トラス橋(架設後51年)であり、これまでも補修工を実施してきたが、構造上拡幅が困難であるため大型車の交通需要に対応するには早期の架け替えが必要である。 ○災害等により、現橋が通行止めになった場合、20km以上迂回する必要がある。 (国道341号新波橋)	12 点
有 効 性	○第二次緊急輸送路としての機能を確保できる。 ○旧雄和町妙法地区には行政、消防等機関(雄和市民センター、河辺消防署雄和分署等)のほか、災害時の避難箇所となる施設(雄和体育館、雄和中学校等)もある。橋梁架替等により、避難時の安全性が確保されるほか緊急車両等の定時性、速達性も向上する。	15 点
効 率 性	○事業の費用便益は2.0であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 34億円 ・総便益の現在価値 68億円 ○計画交通量は4,600台/日となっている。	15 点
熟 度	○地元自治会から橋梁拡幅及び歩道設置の要望書が提出されている。	15 点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III)	85 点
	○ランク I であり、事業実施箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	
総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留 評価結果から事業箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	

3. 総合政策課長の2次評価

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
当該箇所は、橋梁架設後51年が経過し老朽化が進んでいる。幅員が狭小で歩道未設置のため、歩行者の安全確保及び大型車の通行に支障をきたしているが、構造上拡幅が困難であるため、今後の交通需要に対応するのは難しい状況にある。 交通の安全性確保の観点から、必要性及び緊急性は高く、事業実施という1次評価は妥当と判断される。	

4. 財政課長意見

意 見 内 容	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
当該区間は、秋田空港へのアクセス道路及び旧雄和町民の生活道路等として利用されているが、水沢橋は狭小で歩道がない状況であり、また構造の関係上、大型車両の交通が制限されている。住民の早期安全確保等の観点から、当面、現橋に仮設的な歩道を設置して対応することも考えられるが、技術的に困難であれば本計画によることもやむを得ないと思われる。	

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業の実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

事業箇所を国に新規要望する。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所評価

事業コード(H23-建-新-02)

適用基準名 道路改築事業 (地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (秋田市相川 (水沢橋))

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	25	25	
	・車道幅員<5.5m	2箇所	20		
	・最小半径<100m	1箇所	15		
	・最急勾配>5%	0箇所	0		
	・冬期堆雪巾なし	5件該当	15		
	道路環境上の欠陥該当項目	4件該当	12		
	・現道の混雑度≥1.0	3件該当	9		
	・現道の旅行速度≤30km/h	2件該当	6		
	・現道の事故率≥50件	1件該当	3		
	・通学路指定で歩道なし	該当項目なし	0		
・重大交通事故が発生					
計			40	28	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無	あり	4	4	
	・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	3	3	
		位置づけなし	0		
	交通量	増加している	3	0	
		増加していない	0		
特有の課題の有無	あり	5	5		
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0			
計			15	12	
有効性	道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する	5	5	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	5	5	
		該当しない	0		
地域防災計画上重要な道路	該当する	5	5		
	該当しない	0			
計			15	15	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比 (B/C)	1.0以上	8	8	
		0.5以上1.0未満	5		
		0.5未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	7	7	
	500台/日以上1,000台日/未満	5			
	300台/日以上500台日/未満	3			
	300台/日未満	0			
計			15	15	
熟度	地元の状況				
	地元ニーズ	文書要望あり	5	5	
		口頭要望あり	3		
		要望なし	0		
	地元の協力体制	地元の内諾	5	5	
		用地反対	0		
地元への方針説明	あり	5	5		
	なし	0			
計			15	15	
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		